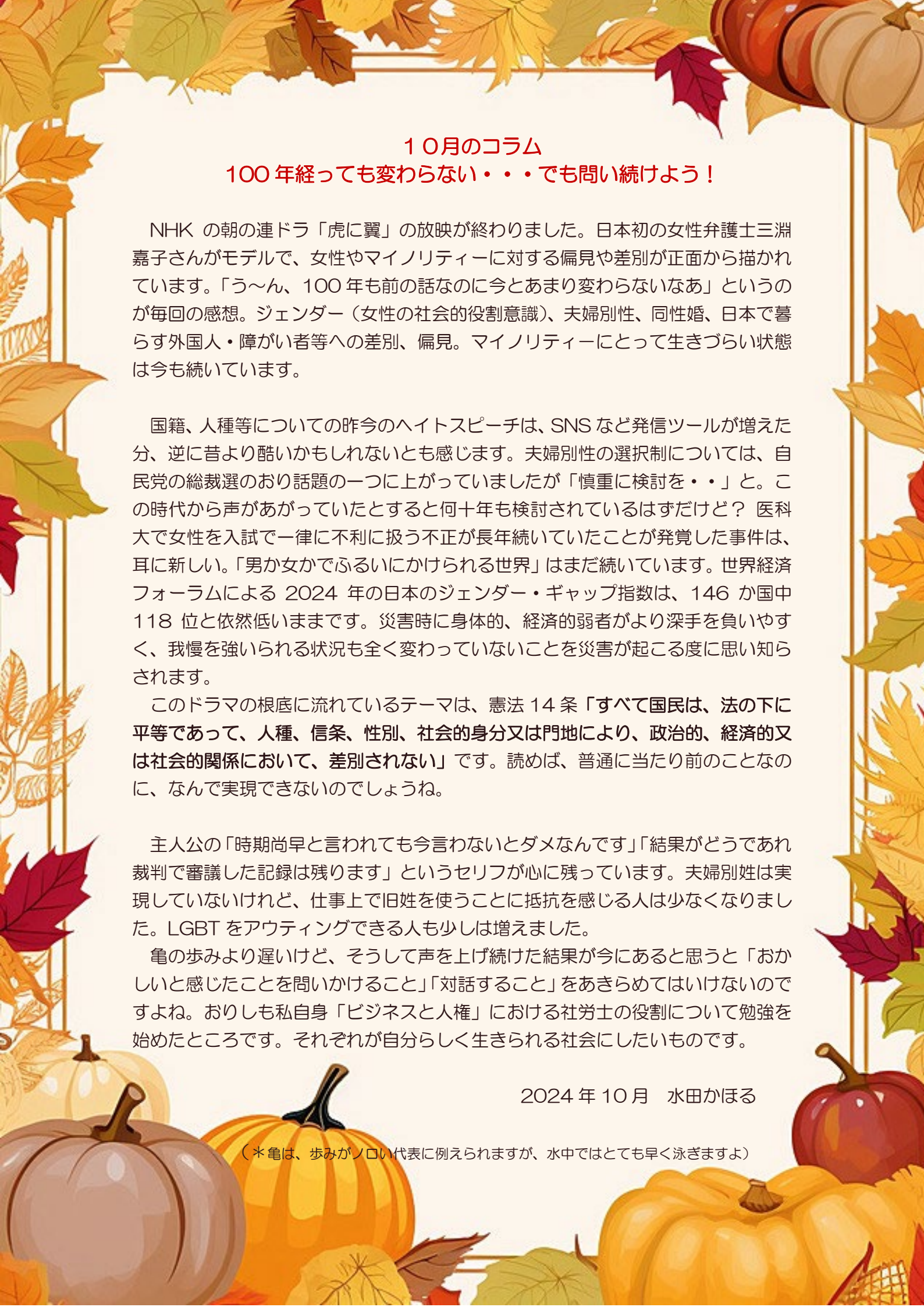




10月のコラム

100年経っても変わらない・・・でも問い続けよう！

NHK の朝の連ドラ「虎に翼」の放映が終わりました。日本初の女性弁護士三淵嘉子さんがモデルで、女性やマイノリティーに対する偏見や差別が正面から描かれています。「う～ん、100年も前の話なのに今とあまり変わらないなあ」というのが毎回の感想。ジェンダー（女性の社会的役割意識）、夫婦別性、同性婚、日本で暮らす外国人・障がい者等への差別、偏見。マイノリティーにとって生きづらい状態は今も続いています。

国籍、人種等についての昨今のヘイトスピーチは、SNS など発信ツールが増えた分、逆に昔より酷いかもしいとも感じます。夫婦別性の選択制については、自民党の総裁選のおり話題の一つに上がっていましたが「慎重に検討を・・・」と。この時代から声があがっていたとすると何十年も検討されているはずだけど？ 医科大で女性を入試で一律に不利に扱う不正が長年続いていたことが発覚した事件は、耳に新しい。「男か女かでふるいにかけられる世界」はまだ続いています。世界経済フォーラムによる 2024 年の日本のジェンダー・ギャップ指数は、146 か国中 118 位と依然低いままです。災害時に身体的、経済的弱者がより深手を負いやすく、我慢を強いられる状況も全く変わっていないことを災害が起こる度に思い知らされます。

このドラマの根底に流れているテーマは、憲法 14 条「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」です。読めば、普通に当たり前のことなのに、なんで実現できないのでしょうか。

主人公の「時期尚早と言われても今言わないとダメなんです」「結果がどうであれ裁判で審議した記録は残ります」というセリフが心に残っています。夫婦別姓は実現していないけれど、仕事上で旧姓を使うことに抵抗を感じる人は少なくなりました。LGBT をアウティングできる人も少しは増えました。

亀の歩みより遅いけど、そうして声を上げ続けた結果が今にあると思うと「おかしいと感じたことを問いかけること」「対話すること」をあきらめてはいけないのですよね。おりしも私自身「ビジネスと人権」における社労士の役割について勉強を始めたところです。それぞれが自分らしく生きられる社会にしたいものです。

2024 年 10 月 水田かほる

（＊亀は、歩みがノロイ代表に例えられますが、水中ではとても早く泳ぎますよ）